

○武蔵高萩駅北土地区画整理事業の第6回事業計画の軽微変更について

○日高市公共施設再編計画策定に向けた進捗状況について

3月16日(金) 次の事項について市長から報告がありました。

報告事項

○中小企業における設備投資の支援措置について

常任委員等
視察研修会

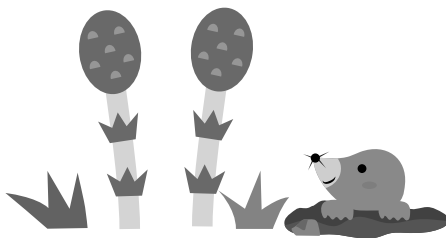
文教経済
常任委員会

1月29日(月) 群馬県高崎市

▼学校給食センターについて

高崎市の学校給食は、単独調理施設・自校方式および共同調理場・センター方式の全てに栄養教諭、栄養士を配置し、完全給食を実施しており、それぞれの学校(園)が掲げる教育目標や給食目標の具現化を目指した特色ある学校給食を行っている。昭和54年度に床を濡らさずに調理ができる給食室のドライ方式への移行を決定し、順次改造、改築を続け平成15年度に全ての給食室改築が完了した。

先進的な取り組みとしては、学校給食で出る生ごみを資源として再利用する「給食残渣堆肥化(飼料化)委託事業」を市で実施している。残飯を回収してろ過したものを残渣といひ、平成24年4月から試験的に給食残渣の飼料化を開始した。この事業の目的



は、給食の調理過程で排出される野菜くず等を回収し、家畜の飼料として新たなサイクルの取組を試験的に開始。高崎産の畜産品の生産に協力することにより、生ごみの減量化と資源の循環利用を推進し、子どもたちの環境教育と食育につなげていくことである。

また、食の安全が叫ばれる中、全国各地で地産地消の動きが高まりを見せている。高崎市の学校給食でも、平成8年から学校栄養士会が中心となり、地場産農産物の活用を行っている。

1月30日(火) 新潟県三条市

▼三条マルシェについて

三条市では、平成22年9月から「三条マルシェ」ごつた市@ホコテン」を開催している。この年の開催は2回だったが、平成23年度からは5月〜10月の毎月1回と、1月か2月の計7回開催している。

「マルシェ」とはフランス

語で「市場」、「ごつた」とは越後の方言で「すごい」「いろいろなもの」という意味であり、生産者・製造業・商店街・小売業者と消費者、都市と農村、食と観光などを結び、「市」という人が集まり楽しむ空間をつくることで賑わいと交流の創出を目的としている。

三条マルシェでは、三条産の新鮮な農作物・旬の果物を使ったグルメやスイーツ、ものづくりの町ならではの手作りクラフトの販売、特設ステージでの市民参加の演芸、ライブやダンスのイベントなどが行われる。当日は、中心市街地が歩行者天国となり、マルシェグリーンに統一されたテナントの店舗がずらりと並び、これは、市民力によって創り出されており、運営は商店主や主婦、学生などの市民で構成される「三条マルシェ実行委員会」が担い、そのほか開催地域住民の理解、商店街の協力、出店者や出演者など、多くの市民が盛り上げに関わっている。また、非日常である定期開催市「六斎市」と連携して開催するなど、単発のイベントで終わらせることなく、日常的なにぎわいの創出に向けた取り組みも行っている。

議会運営委員会

2月5日(月) 静岡県磐田市

▼議会運営について(議会改革の取組)

磐田市議会では、議会改革の取組の一つとして平成24年6月に議会基本条例を制定した。条例は21条からなり、議会および議員の活動原則、市民と議会との関係、議会と市長等との関係、その他議会機能の充実強化について定め、市民福祉の向上、特色ある磐田市政の発展を図ることを目的としている。基本条例に基づく取り組みの主なものとしては、次のとおりである。

